

マルチスキャン

ファイル無害化

次世代Sandbox

3段階の深層防御で マルウェアを排除

OPSWAT独自技術でIT・OT領域を守る

全国の地方自治体の半数以上が利用しているサイバーセキュリティ・プラットフォーム「OPSWAT」は、3段階の防御策を重ね合わせた深層防御で、外部からの脅威を徹底的に取り除く。ITからOTまで有効なOPSWATのテクノロジーについて、OPSWAT JAPANのカントリーマネージャーの高松篤史に聞いた

防御策を重ね合わせる独自対策で 既知・未知のマルウェアを排除

現在、AIサイバー攻撃に代表されるように、悪意のある攻撃者は、AIを悪用して新種のマルウェアを量産しており、その数は1年で1億個を超える。そうした中、米OPSWAT（オプスワット）は、セキュアなデータ転送と安全なデバイスアクセスのための脅威防止、プロセス作成に重点を置いたビジネスを展開中だ。同社ソリューションは、防御策を重ね合わせた深層防御により、従来の検知技術も活用しつつも検知に頼らない脅威除去を実現している。

深層防御では大きく分けて3段階の防御策を実施する。まず「マルチスキャン」では最大で30種類のアンチウイルスエンジンを併用してチェックし、2段階目では「ファイル無害化／CDR（Content Disarm and Reconstruction、コンテンツの非武装化と再構築）」を実施。マルウェアを検出しようとするのではなく、ファイルを分解してスクリプトなどを除去し、安全なコンテンツのみでファイルを再構築するのだ。

「1種類以上のファイルタイプに対応しており、不要なコンテンツはマルウェアかどうか関係なく強制的に除去する。必要な成分だけ蒸留するようなイメージだ」とカントリーマネージャーの高松氏は語る。

この段階でほとんどの脅威が除去されるが、無害化の対応から外れたファイル形式で届くことも想定し、3段階目として「次世代Sandbox」も用意している。従来のSandboxだと、仮想OSを利用するため、仮想OSを検知すると挙動を止めるSandbox回避型のマルウェアも多く出現しているが、OPSWATの次世代Sandboxなら、仮想OSを利用しないエミュレーション方式を採用しているため、仮想OSを検知するマルウェアも強制的に動かし、マルウェアかどうかの判別が可能だ。こうした防御力の高さが評価され、OPSWATのソリューションは全国地方自治

体の半数以上に採用されている。

デバイスのフルスキャンや ファイアウォールでOT領域も守る

OPSWATはOT領域でも定評があり、米国の原子力発電施設の98%が採用しているほどだ。その理由の一つが、上記の深層防御に加えて、次世代ゲートウェイソリューションで脅威を徹底的に排除する点にある。

例えば、工場の出入口に設置したKIOSK（アプライアンス）でPCやUSBメモリなどを全てスキャンし、外部からマルウェアが持ち込まれるのを阻止する。これならセキュリティソリューションを直接インストールできないデバイスでもオフラインでフルスキャンが可能だ。

ネットワークセキュリティを強化するOT環境向けファイアウォール「OPSWAT NetWall」も提供している。データダイオード技術で一方向通信を実現し、データ転送の安全性を確保可能だ。ほかにも、OT資産の可視化とコントロールを行う「MetaDefender OT Security」などのソリューションがある。

総務省や経産省のガイドラインに適合 競合がないのがアドバンテージに

OPSWATは日本の地方自治体や米国の原子力発電施設のほかにも、金融や製造などセキュリティが重要な領域で多く採用されている。例えば、再保険など保険サービス大手のスイスSwiss Re（スイス・リー）やWeb会議ソリューションの米Zoom Communications（ズーム・コミュニケーションズ）などがOPSWATのユーザーとして挙げられる。

日本の地方自治体で多く採用されているのは、総務省が地方自治体向けに出している要件に合致するためだ。また、経済産業省が策定し公表しているセキュリティガイドラインにも「OPSWAT SBOM」で対応できる。

OPSWAT JAPANでは直接販売を行わず、間接販売に徹している。カントリーマネージャーの高松氏はディストリビューターやリセラーに対して「アンチウイルスやEDRだと価格競争になるが、OPSWATの独自技術なら他社と競合しない。パートナーとのWin-Winの関係を構築できることがアドバンテージになる」と説明する。

そうした中、国内最大級のインターネットテクノロジー展示会「Interop Tokyo 2025」に出展し、米OPSWATのYiyi Miao・CPO（Chief Product Officer）による基調講演も予定している。「基調講演ではOPSWAT最新ソリューションとユースケースを紹介する。展示ブースではITからOTまで、包括的なソリューションを展示するので、ぜひ立ち寄ってほしい」とカントリーマネージャーの高松氏は呼び掛ける。

photo by Naoki Onishi



OPSWAT JAPAN
高松篤史
カントリーマネージャー

